

ご 注 意

地盤の許容応力度及び基礎杭の許容支持力は、国土交通大臣の定める方法によって地盤調査を行い、その結果に基づき定めなければならないと規定されています。(建築基準法施行令第93条)

地盤構成並びに各地層の性状は、場所ごとに千差万別であることから、敷地（状況においてはその周辺も含めて）の地盤調査によって地盤構成等を的確に把握し、その結果に基づいて建物をどの地層に支持させるかを決定する必要があります。

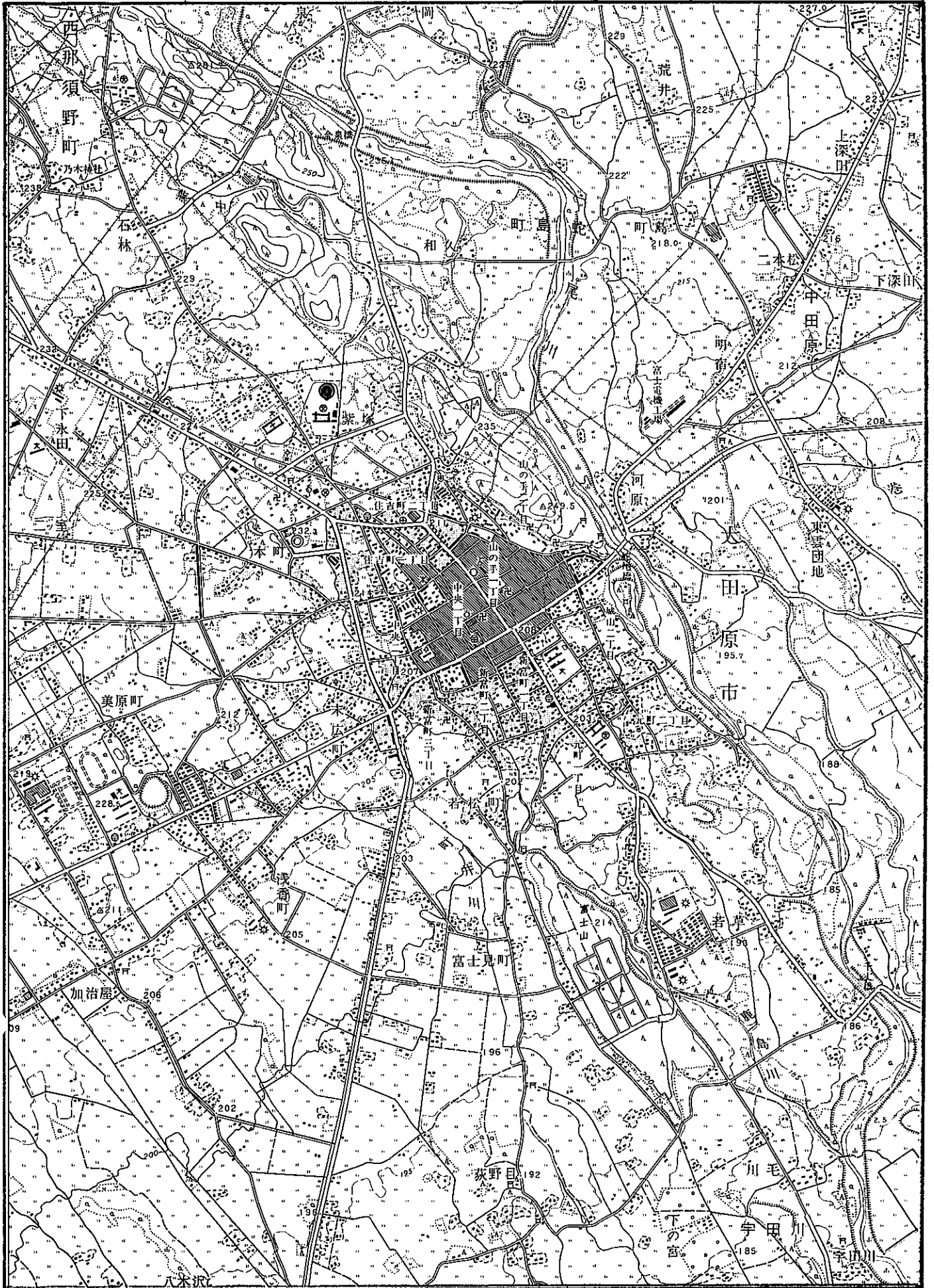
したがって、本資料は計画段階における参考資料としてご活用ください。

栃木県土木部建築課

調査位置図

● 調査地

S=1:25,000



土質柱状図 報告用紙

調査名 大田原高校体育館新築工事地質調査

調査年月日 63年6月8日

KBM = 100.00 とする

調査地点 大田原市紫塚

標高 100.10 m

63年6月10日

ボーリング孔: No. 2

孔内水位(自然泥) 20.20 m

調査責任者

標尺 m	標高 m	深さ m	層厚 m	土質記号	視察記録		採取試料・原位置試験
					土質名	色調	
0							
▽1	99.10	1.00	1.00	表土	暗褐	0.1mまで山砂の盛土 0.1~0.7mまで砂質シルトの盛土	74μm過り百分率(%) N値
2	98.80	1.30	0.30	砂	灰茶	0.7m以深地山のシルト 粗粒砂が主体 若干細粒分を混入	
3							
4				砂礫	灰茶	φ30~50%の円礫を主体とし、所々にφ80~100%の玉石を点在	
5	95.10	5.00	3.70			マトリックスは粗粒砂によりゆるく充填される 全体的に崩れ易い地盤である	
6				凝灰質砂 (浮石層)	暗灰	粗粒砂を主体とし、上部は非常にゆるい 下部に行くに従い中位の締め具合になる φ5~20%の浮石を散在する	
7							
8	92.10	8.00	3.00				
9							
10							

備考

注1) 試料採取方法の記号

- T: シンウォールサンアラ
- F: フォイルサンアラ
- P: 標準貫入試験用サンアラ
- O: オーガー
- D: デニソン型サンアラ

注2) 原位置試験方法の記号

土質柱状図 報告用紙

調査名 太田原高校体育館新築工事地質調査

調査年月日 63年6月11日

調査地点 大田市紫塚

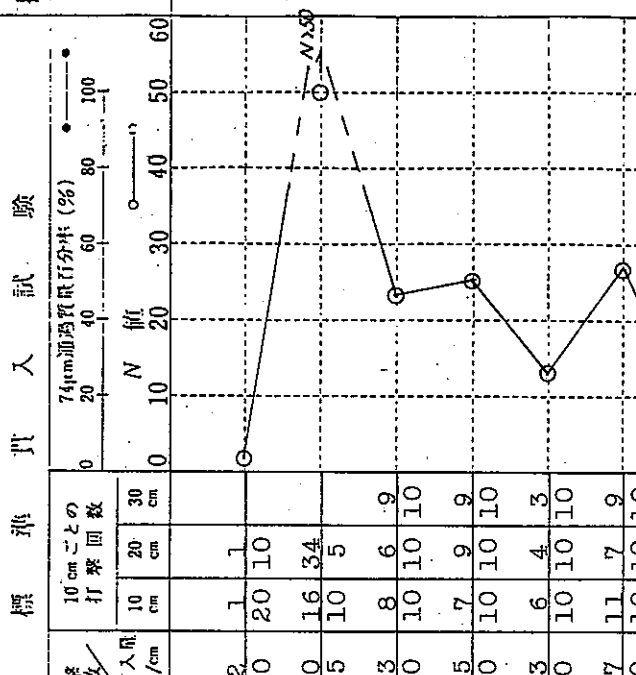
KBM = 100.00 とする

標高 100.06 m ~ 63年6月13日

ボーリング孔: No. 3

孔内水位(自然, 泥) GL - 1.40 m 調査責任者

標尺 m	高さ m	深さ m	層厚 m	土質記号	観察記録		標準貫入試験	採取試料・原位置試験
					土質名	色調		
0								
1	98.86	1.20	1.20	表土	暗褐	0.2mまで山砂等の盛土 0.20~0.40mまで黒色 シルト	2 30	測定番号 試料番号
2	97.96	2.10	0.90	砂質粘土	暗茶 茶	0.40m以深は地山のシルト 腐植物混入 微細砂混入	15 34	
3						φ30~50%の円礫を 主体とし、所々にφ100 ~150%の玉石を点在 マトリックスは粗粒砂に よりゆるく充填される 6m付近より若干細粒 分を混入する 全体的に崩れ易い地盤 である	23 30	
4							25 30	
5							13 30	
6							27 30	
7	92.86	7.20	5.10				5 30	
8	92.06	8.00	0.80	礫灰質砂 (浮石層)	暗灰	粗粒砂主体 上部はルーズである	3 10	
9							1 10	
10							4 10	



備考

注1) 試料採取方法の記号

T: シンクウォールサンブラー F: フォイルサンブラー
P: 標準貫入試験用サンブラー O: オーガー
D: デニソン型サンブラー

注2) 原位置試験方法の記号

土質柱状図

報告用紙

調査名 大田原高校体育館新築工事地質調査

調査年月日 63年6月5日

調査地点 大田原市紫塚

KBM=100.00とする
標高 100.11 m

~63年6月7日

ボーリング孔: No. 1

機種

孔内水位(自然, 泥) GL-1.30 m

調査責任者

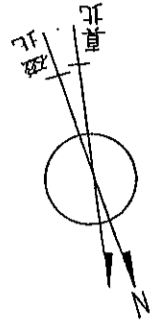
標尺 m	標高 m	深さ m	層厚 m	観察記録			標準貫入試験					採取試料・原位置試験						
				土質記号	土質名	色調	記事	深さ m	打撃 回数	10cmごとの 打撃回数			74μm通過質量百分率(%)		試料 番号	測定 番号		
									10cm	20cm	30cm	N 値		深さ m	方注1) 注2)			
0							0.1mまで山砂の盛土	1.15	3	1	1	1						
1	98.81	1.30	1.30		表土	暗褐	0.1~0.7mまで砂質シルトの盛土	1.45	30	10	10	10						
2	97.81	2.30	1.00		砂	灰茶	0.7m以深は地山のシルト 粗粒砂が主体 若干細粒分を混入	2.15	1	1								
3					砂礫	灰茶	φ30~50%の円礫を主体とし、所々にφ80~100%の玉石を点在 マトリックスは粗粒砂によりゆるく充填される	3.15	23	5	9	9						
4	95.91	4.20	1.90							3.45	30	10	10	10				
5	95.01	5.10	0.90		礫混り砂	灰茶	粗粒砂を主体に若干粘土分を混入 礫はφ30%前後が多い	4.15	10	3	4	3						
6					凝灰質砂 (浮石層)	暗灰	全体的に粗粒砂が主体 φ5~20%の浮石を所々に散在 下部に行くに従い、徐々に浮石が大きくなる 所々部分的に茶色を帯る所がみられる 深度10m付近より徐々に黒色が濃くなる 11m付近より中位~密実な締り具合を示す	4.45	30	10	10	10						
7										5.15	8	2	2	4				
8										5.45	30	10	10	10				
9										6.15	15	3	5	7				
0										6.45	30	10	10	10				
1										7.15	29	8	11	10				
2										7.45	30	10	10	10				
3										8.15	30	9	10	11				
4										8.45	30	10	10	10				
5	85.11	15.00	9.90							9.15	21	6	7	8				
6							9.45	30	10	10	10							
7							10.15	23	7	8	8							
8							10.45	30	10	10	10							
9							11.15	28	8	9	11							
0							11.45	30	10	10	10							
1							12.15	37	10	11	16							
2							12.45	30	10	10	10							
3							13.15	39	10	13	16							
4							13.45	30	10	10	10							
5							14.15	41	13	14	14							
6							14.45	30	10	10	10							
7							15.15	46	14	15	17							
8							15.45	30	10	10	10							

備考

注1) 試料採取方法の記号

注2) 原位置試験方法の記号

- T: シンウォールサンプラー
- F: フォイルサンプラー
- P: 標準貫入試験用サンプラー
- O: オーガー
- D: デニソン型サンプラー



平面位置図 縮尺=1:600

